



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第4号

2024年7月23日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

森岡小学校 補充学習会

あっという間に1学期が終わり、夏休みに入りました。活動してくれたSPさん、ありがとうございました。

夏休みに入って、さっそく森岡小学校で補充学習会が2日間開催されました。大学4年生の酒井 SP が2日間とも来てくれました。酒井 SP が初めて SP 活動に参加したのは、去年の夏休み。ちょうど1年前です。「いろいろな学校で、いろいろな経験がしたいです。」と話してくれていました。その言葉通り、今年の夏休みは5校で活動予定です。1年経った今、さらにやる気をパワーアップさせている、非常に意欲の高い SP さんです。



久しぶりにじっくり活動の様子を見させていただいたのですが、驚きました。子どもとの関わり方が1年前より格段に上手くなっていました。酒井 SP は、ウィークリーSPとして片葩小・緒川小・卯ノ里小で活動した経験があります。その経験も生きているのでしょう。高学年の子どもたちの心をすぐに掴み、笑顔を引き出していました。初めて会う子どもたちとすぐに打ち解けて話ができる力は、現場に出たら必ず役に立つはずです。子どもたちの興味を引き付ける引き出しを、この1年でたくさん増やしたのでしょう。現場で子どもたちとたくさん関わったからこそ、つけることのできた力だと思います。

また、子どもたち同士で勉強を教え合っている時も、子どもの発言をよく聞いています。「メダカってどっちがオスでどっちがメスだっけ?」「こっちがオスで、こっちがメスだよ!」という会話の後ですかさず、「え?なんでそうなの?」と質問する酒井SP。子どもは、「え～、なんでだっけ?」「たしか、“ひれ”が違うんだよね。」別の子どもも話に入ってきました。学校に来て、友達と、そしてSPさんと勉強したからこそ、改めて記憶に残る復習ができたのではないかと思います。酒井SP、お疲れ様でした。

